

春日井を環境アレルギー対策で ユニバーサルデザイン先進都市へ

環境アレルギーアドバイザー支援ネットワーク愛知

代表 加藤 美奈子さん

看護師。自身の子どもが喘息で悩んだ経験から、病児の子育てをサポートするボランティア団体を設立。そこでアレルギー問題を目の当たりすると同時にアレルギーに対する周囲の理解の低さに危機感を持ち、環境アレルギーアドバイザー資格を取得。環境アレルギーアドバイザー支援ネットワーク愛知を立ち上げた。2018年には春日井環境アレルギー対策センターを起業。精力的に啓蒙活動に取り組んでいる。



春日井の 未来にいいこと!

Vol.5



エネルフくん

大きな話になるのですが、最終的な目標は持続可能な社会を実現することです。SDGsという言葉を耳にしたことはありませんか？SDGsとは、国際連合(国連)が世界共通の目標として掲げた、「持続可能な開発目標」= Sustainable Development Goalsです。地球規模で人類が持続可能な社会を築くための目標を17つに分類して採択されました。

環境アレルギーアドバイザー支援ネットワーク愛知の代表として私が主に取り組んでいるのは、そのうち「すべての人に健康と福祉を」一住み続

Q1 環境アレルギー対策に奔走されている加藤さん。どのような目標を持って活動されていますか？



▲愛知支部には現在28名の環境アレルギーアドバイザーが所属

けられるまちづくりを「気候変動に具体的な対策を」の3つ。これらをまずは春日井市で実現して、日本中、そして世界中に発信していきたいと考えています。

Q2 そのために、現在は何のような活動をされていますか？

まずは環境アレルギーについて多くの人に理解してもらいたいと考えています。環境アレルギーとは、人が呼吸や食事などを通じて、体内に特定の物質(アレルゲン・化学物質)を取り込んだ際に起きる身体の拒否反応のことです。現在、国民の約50%が何らかの環境アレルギーの症状があると言われて

いますが、まだまだその対策は十分に行われていないといえません。そこで、多くの方に室内に存在するアレルゲンや化学物質をよく理解してもらうことが、誰もが健康で快適に生活できる、持続可能な社会の実現の第一歩だと考えています。

様々な環境アレルギーの中でも、呼吸を通じて取り込んでしまう化学物質についての周知活動に力を入れています。例を挙げると、塗料や接着剤に含まれるホルムアルデヒドなどの揮発性有機化合物です。人は1日に約1万リットルもの空気を体内に取り入れると言わ

れており、たとえ空気中に含まれる化学物質の毒性が弱く微量でも、長時間空気とともに吸い込むと健康被害の症状が出る可能性があります。まずは、空気中にどのような化学物質がどのくらい存在するのか目に見える形で知ってもらうため、室内の空気測定調査を実施。測定結果に合わせて室内の化学物質を低減する対策案を紹介しています。環境アレルギーでお困りの当事者だけでなく、家族、周囲の方にこの活動を知って頂き、誰もが安心して暮らせる、ユニバーサルデザインの空間を春日井市に増やしていきたいと思っています。

Q3 この春、当社主催の「未来にいいこと応援プロジェクト」に選定させて頂きました。プロジェクトではどのような活動をされるのでしょうか？

▼ホルムアルデヒドなど室内における特定化学物質を測定

▼環境アレルギー対策新聞



このコーナーは、大和エネルギーがはるるを通じて「春日井の未来にいいこと！」をシリーズでお届けします。

環境アレルギー対策を推進する力になって欲しいと考えています。将来的には、興味を持ってくれた若者たちをはじめとした多くの皆さんと春日井市を世界中から注目される環境アレルギー対策の先端都市へと発展させていきたいと考えています。

